

## 第3回

鹿児島大学総合研究博物館 特別展

# 海と生命の歴史

化石は語る

2003.10/23(木)~11/24(月) 9:30~17:30

(期間中全日開催)

鹿児島大学 郡元キャンパス

総合教育研究棟 ② プレゼンテーションホール

入場無料



### 公開実習 「三葉虫を調べよう」

講師 大野 照文 京都大学総合博物館教授  
日時 11月16日(日)10:00~12:00  
場所 鹿児島大学郡元キャンパス  
総合教育研究棟2F 201

### 市民講座 「三葉虫が見た海の世界」

講師 大野 照文 京都大学総合博物館教授  
日時 11月16日(日)15:10~16:40  
場所 総合教育研究棟2F 201

### ミニコンサート 「海の調べ」

池田 博幸氏・有村 航平氏ほか  
日時 11月16日(日)13:30~15:00  
場所 総合教育研究棟1F エントランスホール



鹿児島大学総合研究博物館

T890-0065 鹿児島市郡元1-21-30 TEL/FAX (099)285-8141  
<http://www.scl.kagoshima-u.ac.jp/~uchik/museum-top.htm>



# 第3回 鹿児島大学総合研究博物館 特別展



# 海と生命の歴史 化石は語る

2003.10/23(木)～11/24(月) 9:30～17:30 (期間中全日開催)

鹿児島大学 郡元キャンパス総合教育研究棟 2F プレゼンテーションホール



◀川辺町産  
小学生の発見した  
白亜紀後期(中生代)のアンモナイト化石

化石が昔生きていた生物の遺骸であることは、今ではあたりまえのように考えられていますが、地層の中から見つかる化石をそのように理解することは大変難しかったようです。このような正しい化石観を持ちえた一人に、ルネッサンスの時代に活躍したレオナルド・ダ・ヴィンチがいます。彼は古生物学・地質学者でもあったのです。

ところでみなさんは、化石をどのようにイメージしていますか。多くの方から、昔生きていた生物の遺骸が石のように硬くなったものという答えが返ってきます。化石という漢字のイメージから、そのように考えているようですね。化石は英語でfossilと言いますが、もともとはラテン語の「掘り出した物」という意味で、石に化けるというニュアンスはないのです。その意味ではシベリアの永久凍土から発見されたマンモスは、肉が腐っていないでも化石ということになります。琥珀に閉じ込められ、ほぼ完璧な姿で保存されている昆虫も化石なのです。

化石は大きく二つに分けられます。マンモスや昆虫などの生物の遺体そのものや生物の印象として残ったものを遺体化石、生物が作った足跡、這い跡や巣穴などが地層に残ったものを生痕化石と呼びます。

これらの化石から、生物の進化の道すじが分かり、地球の歴史をひも解くことができました。地質年代のマーカーになった化石を示準化石といいます。一方で、化石を調べることによって地質時代の環境が分かります。化石になった生物が生活をしてきた環境を知ることができるのです。このように地質時代の環境を知る手がかりになる化石を示相化石と呼びます。

第3回特別展では、おもに鹿児島大学理学部地学教室(現地球環境科学教室)に保存されていた化石の展示を通して、化石をより深く理解していただき、南九州に分布する海の地層より産出した化石から、かつて南九州に繰り広げられた海と生命の歴史を読み取っていただけることと存じます。みなさまお誘い合わせの上、特別展にぜひお越しください。

## 会場のご案内



## 交通のご案内

- バス 市バス「法文学部前」下車徒歩3分、「騎射場」下車徒歩10分  
鹿児島交通バス「騎射場」下車徒歩10分
- 市電 「工学部前」下車徒歩8分
- J R 鹿児島本線「西鹿児島駅」下車、バス・電車で15分  
指宿枕崎線「郡元駅」下車徒歩12分
- 自動車 九州自動車道(鹿児島IC)より15分

## 鹿児島大学総合研究博物館

〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-30 TEL/FAX (099)285-8141  
<http://www.sci.kagoshima-u.ac.jp/~uchik/museum-top.htm>